

平成30年度

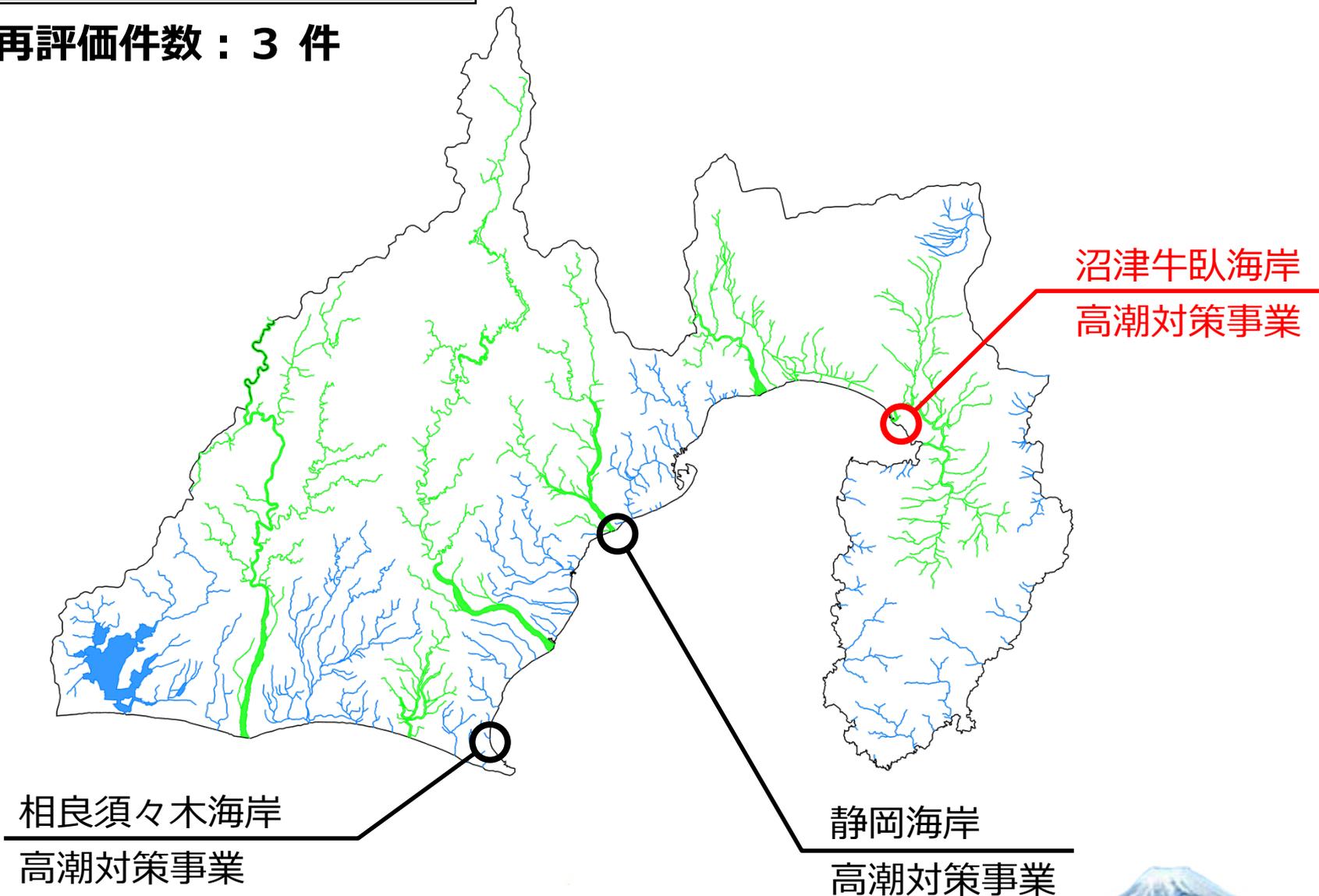
# 公共事業再評価

代表箇所	事業名	箇所名
◎	高潮対策事業	沼津牛臥海岸
	高潮対策事業	静岡海岸
	高潮対策事業	相良須々木海岸

河川砂防局 河川海岸整備課

# 再評価実施箇所位置図

再評価件数：3件



# 1. 位置図



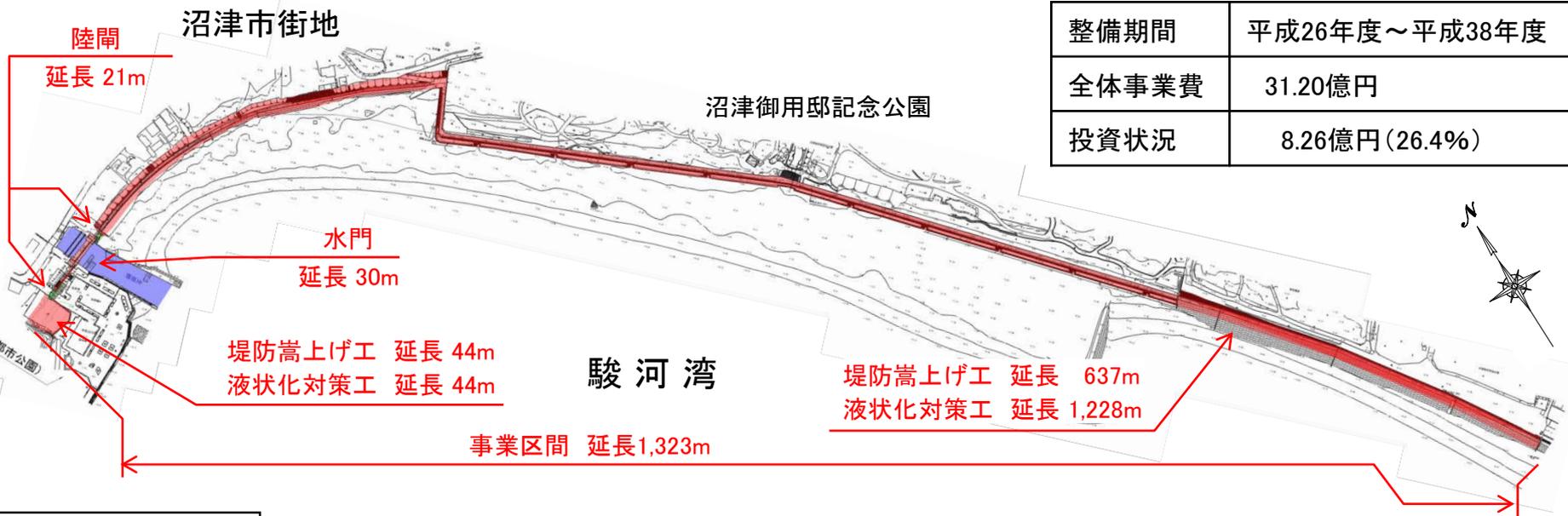
事業箇所：沼津牛臥海岸  
(延長1,323m)

# 2. 事業概要

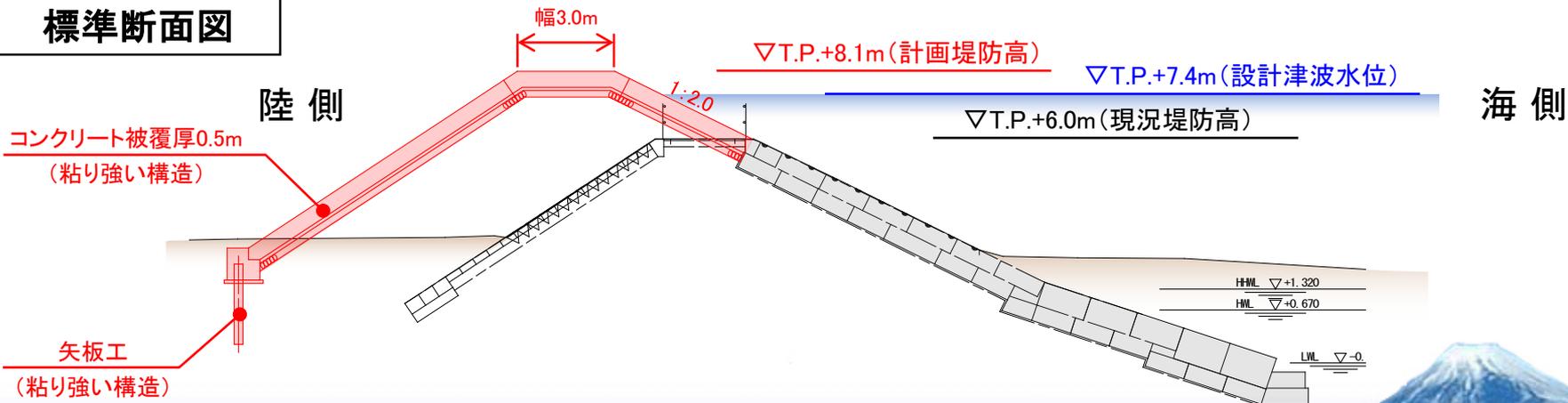
## <事業目的>

駿河トラフ・南海トラフ沿いの地震発生で想定されるレベル1津波から、背後地の浸水被害を防止・低減させ、住民の生命・財産を守ることを目的とする。

### 平面図



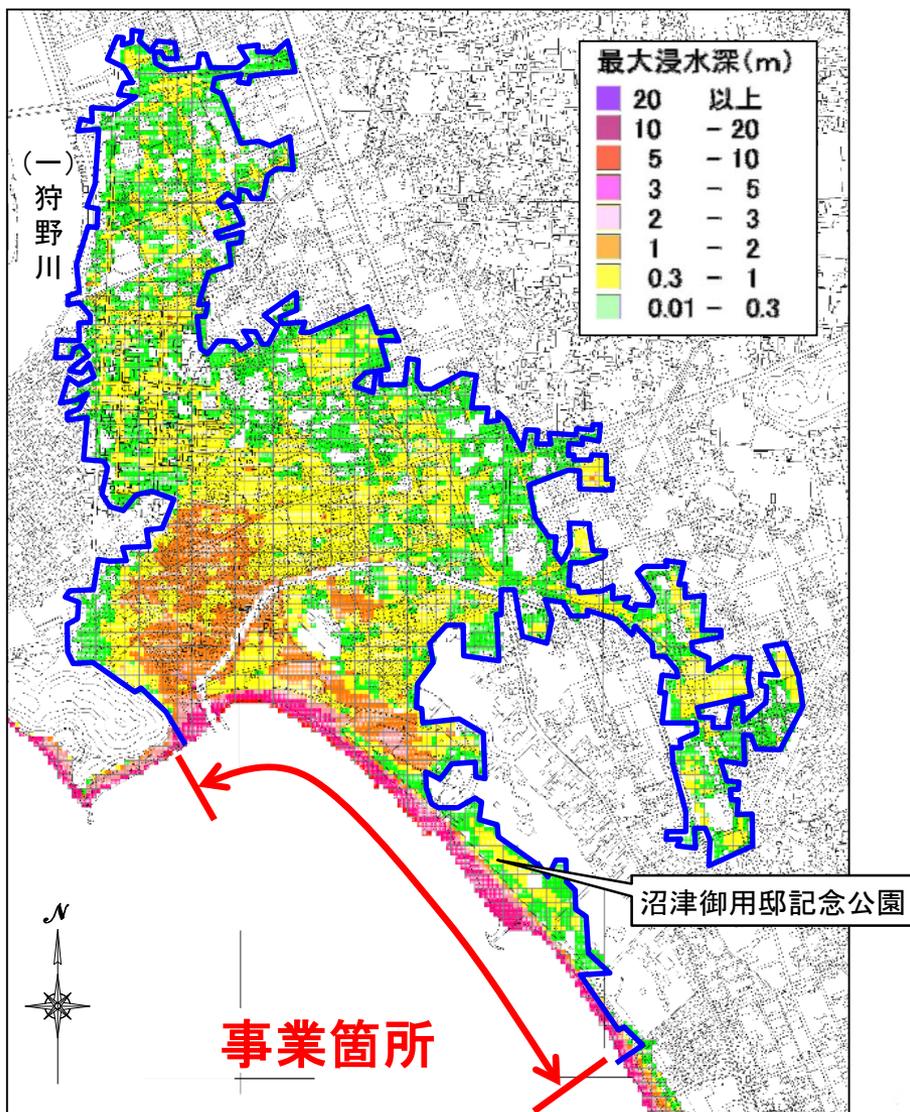
### 標準断面図



いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

### 3. 事業の必要性(事業を巡る社会経済情勢等の変化)



沼津牛臥海岸では、静岡県第3次地震被害想定による津波被害防止のため、海岸堤防をT.P.+6.0mの高さで整備



東日本大震災を教訓とした静岡県第4次地震被害想定公表(平成25年6月)



- 津波による浸水被害が想定される沿岸地域では、津波対策の施設整備を進めるとともに、防災教育や津波避難訓練の実施など、地域住民の防災意識の醸成が図られている。
- 地域住民の生命と財産を守る海岸保全施設の整備に対する期待は益々大きなものになっている。

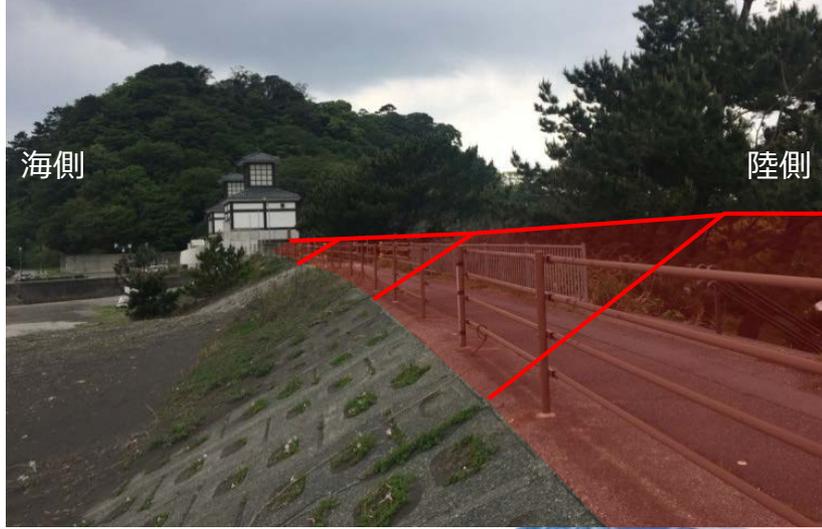
# 4. 事業実施状況



海岸堤防の整備 (H29施工区間)



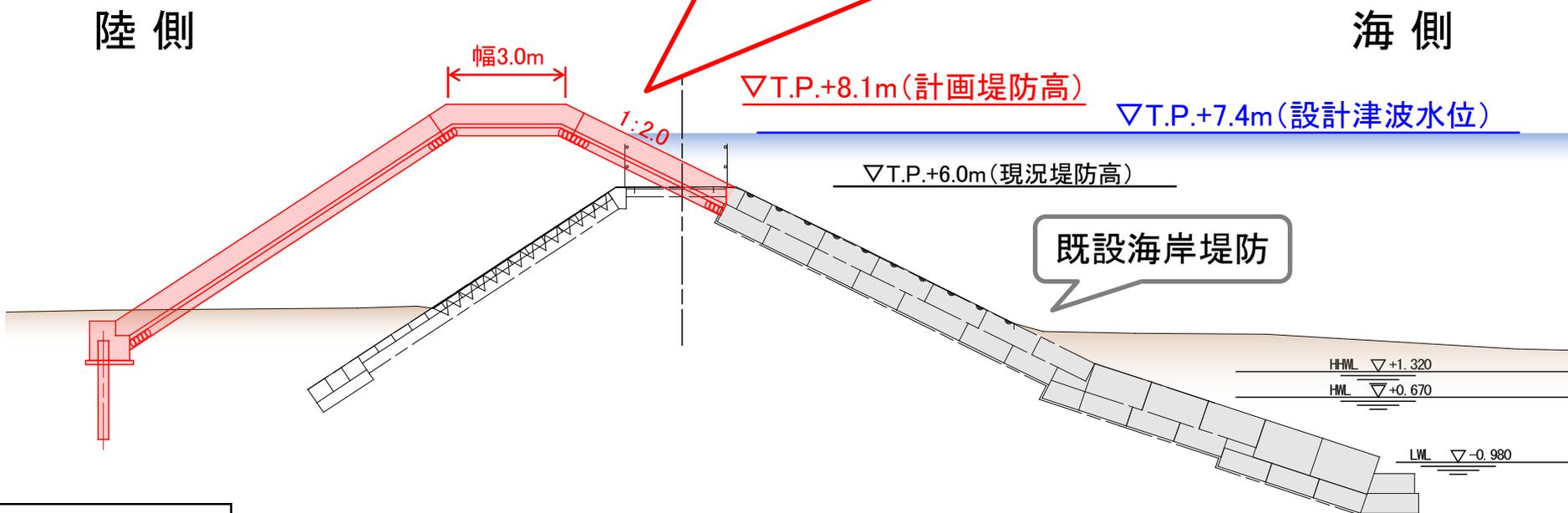
海岸堤防の整備 (H30施工区間)



# 5. 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性

## コスト縮減の取組み

既設海岸堤防を生かし、コスト縮減を図りながら想定される津波から背後地を防護する施設整備を実施



## 事業の効果

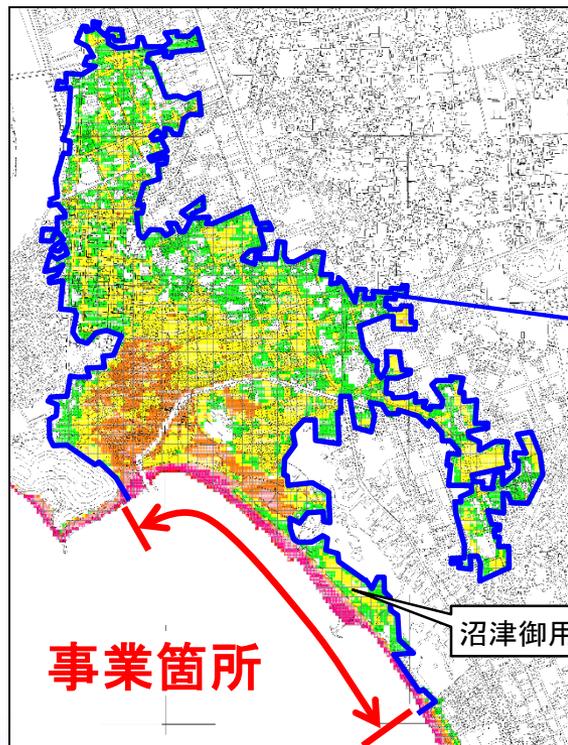
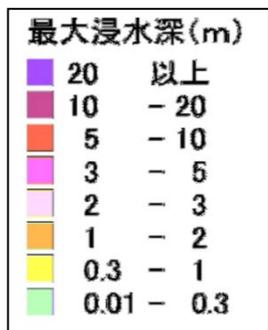
本事業によりハード対策を実施し、想定されるレベル1津波から県民の生命・財産を守る。そして、レベル2津波に対しては、沼津市による津波ハザードマップの整備や地域の継続的な津波避難訓練などのソフト対策を組み合わせ、被害の最小化を図るよう沼津市と連携して進めていく。

# 6. 事業の投資効果

便益(B) (浸水防護便益43.28億円×50年) × 社会的割引率 + 施設残存価値  
費用(C) (事業費31.20億円 + 維持管理費0.16億円×50年) × 社会的割引率

費用便益比(B/C)

$$\frac{\text{便益(B)}}{\text{費用(C)}} = \frac{1037.81\text{億円}}{30.58\text{億円}} = 33.93$$



※計画時は費用便益分析を実施せず

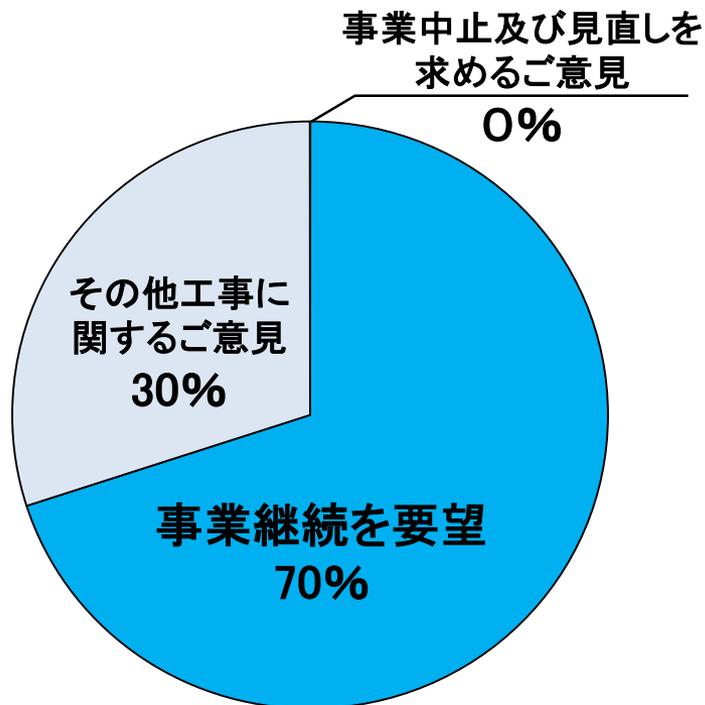
※平成30年度換算価値

※文献(マニュアル)

- ・「海岸事業の費用便益分析指針(改訂版)」、海岸4省庁、平成16年6月
- ・「治水経済調査マニュアル(案)」、国土交通省河川局、平成17年4月  
(各種資産評価単価及びデフレーターは平成30年2月改正版)

事業を実施しない場合の想定浸水域  
面積 87.9ha

# 7. 地元意見



アンケート調査結果  
(高潮対策事業の受益者10名)  
※自治会役員等

## 主な意見

- 地区の住民は、昔から津波による浸水の危険は認識しており、新たな堤防の必要性は理解している。
- 堤防は全部できて本当の効果を発揮する。なるべく早く完成させてほしい。
- 津波対策は命にかかわることだから、地区の中で反対しているといった話は聞いたことはない。早く作ってもらいたい。
- 運搬路は通学路と重複する場合は、車両通行時間や通行方法等について小学校に相談してほしい。  
⇒ 運搬路が通学路と重複するため、工事前に小学校へ相談し、登下校時の搬入は避ける等の対策を検討します。



地域住民の事業に対する期待は大きい

## 8. 今後の事業の進捗の見込み

- 地元の協力や事業に対する期待も大きく、引き続き進捗が見込まれる。
- 沼津御用邸記念公園が隣接する区間の施工に向け、引き続き管理者等の協議を進めるなど、計画的な事業進捗と早期効果発現を図る。

## 9. 対応方針(案)

本事業による施設整備は、レベル1津波から地域住民の生命・財産を守るものであり、費用対効果も認められることから、事業継続とする。